

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム(2018)第18巻:

第1回

## 学会の動向

# 第 38 回臨床歩行分析研究会定例会 開催報告

小 原 和 宏

平成 28 年 11 月 4 日から 5 日まで、第 38 回臨床歩行分析研究会定例会が旭川医科大学臨床講義棟にて開催され滞りなく執り行うことが出来たことをここにご報告いたします。

臨床歩行分析研究会は、歩行や姿勢、そしてあらゆる動作を解析し、その成果を臨床に応用することを目的としています。この会は 1983 年に臨床歩行分析懇談会として設立され、同年に第 1 回定例会が開催されました。1997 年に臨床歩行分析研究会へ名称を変更し、現在に至っています。本研究会では、動作の解析方法の研修会・セミナーの開催や、PC 用動作解析ソフトの開発と配布、各種書籍・ニューズレターや学会誌の発行をしています。

臨床歩行分析研究会定例会の発表者や出席者の業種は、理学療法士が最も多く、医師・作業療法士・義肢装具士といった医療関係者だけではなく、建築関係者や PC 技術者など多くの職種にわたっており、大切な情報交換の場となっています。

第 38 回臨床歩行分析研究会定例会では、口述発表・ポスター発表・企業展示をコンパクトにまとめ、多分野の多くの参加者が楽しく参加できる会を目指しました。「研究は臨床のためにあり、臨床は研究のためである」という考えのもと、本研究のテーマを「臨床現場と研究の連関」としました。

今回の定例会は、開催時期の 11 月初旬としては珍しく多くの積雪となりましたが、南は九州からの参加者が出席し、28 演題の発表がありました。最近の歩行・動作分析では、「転倒の原因と予防」や「装具や歩行補助装具の動作への影響」といった演題が多くみられますが、定例会発足当時から続けられている研究内容

は、「片麻痺」「変形性股関節症」「変形性膝関節症」「スポーツ障害」があります。今回は、多忙な臨床医の仕事をごなしつつ動作解析の研究経験があり、また動作解析以外の研究実績が豊富な旭川医科大学整形外科医師による以下の 2 題の特別講演を開催しました。定例会初日には、旭川医科大学整形外科・人工関節講座特任助教・佐々木祐介先生による「ACL (膝前十字靭帯) 損傷に対する集学的アプローチ」の講演がありました。手術所見・再建術の際の骨孔の位置といった研究内容だけではなく、受傷メカニズム、今後の展望など臨床・研究両分野にわたる内容でした。もう一つの特別講演は旭川医科大学整形外科学講座助教・阿部里見先生の「手術を通して考える変形性関節症」でした。動力学的観点からの診断や手術所見、治療のアプローチといった講演内容でした。変形性関節症は多くの因子により発症し、発症に至る動作やアライメントも重要な要因であることを丁寧に講演していただきました。口述発表・ポスター発表における新たな試みとして、発表内容の素晴らしさだけではなく、会場を大いに盛り上げてくれた発表者に対し「賞 (座長賞)」を設定しました。補助装具を身に付けながら発表したり、被検者の動作を自身で再現した発表者らが受賞し、会場が一体となり盛り上がる事が出来ました。小さな会ですが、悪天候にもかかわらず全国各地から約 130 名の参加者があつまり、大盛況にて会を終了することが出来ました。

比較的小規模な定例会ではありますが、実行委員は脳機能医工学研究センターのスタッフのわずか 4 名でした。少人数で準備・当日の運営を行う必要があったため、平成 28 年 3 月から定期的に会議を行い十分に準

備を行いました。旭川医科大学の施設を利用するにあたり、大学事務職員の方々のお力添えがあったからこそ、万全な準備で定例会を開催することが出来ました。そして、旭川医科大学男子バレーボール部の学生たちが、定例会の会場設営・後片付けや、当日の受付・クローク・司会進行を滞りなくしてくれました。スタッフと学生が素晴らしいチームワークを発揮し大盛況にて定例会を終了することが出来ました。

本定例会の運営にご協力いただいた皆様、またご参加いただきました皆様に、厚く御礼申し上げ、定例会の開催報告とさせていただきます。

